

〈授業改善推進プラン 令和4年度第1学年 国語科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村学力調査の問題内容では、「文法・語句に関する事項」の目標値 71.7%に対して、校内正答率 57.1%だった。 ・村学力調査の問題内容では、「文章を書く」の目標値 48.8%に対して、校内正答率が 28.6%だった。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「漢字を書く」については、「振り返りができるように頁数を記入の上、漢字の書き取りを練習させる。国語辞典で調べた語句の意味をもとに、20字以内の短文を作らせる。」という改善プランを策定した。 ・「文章を書く」については、令和2年度に当該の授業改善推進プランが策定されていない。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「漢字を書く」では、漢字の書き取りや短文の作成を計画的に行っている。 ・「文章を書く」では、新聞記事を活用して意見文を書いたり交流したりしている。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top; border-right: 1px dashed black;"> <p><方策></p> <p>①計画的に漢字学習の習熟度を確認し、個別支援を充実する。</p> <p>②計画的に文章を書く学習の習熟度を確認し、個別支援を充実する。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①村学力調査の調査結果で、「漢字を書く」の全国平均の値を、校内正答率が10%上回っているか確認する。</p> <p>②村学力調査の調査結果で、「文章を書く」の全国平均の値を、校内正答率が10%上回っているか確認する。「指定された長さで文章を書いている」の問題項目と「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている」の問題項目と「自分の考えを明確にして書いている」の問題項目の校内正答率が、全国平均の値を10%上回っているか確認する。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①計画的に漢字学習の習熟度を確認し、個別支援を充実する。</p> <p>②計画的に文章を書く学習の習熟度を確認し、個別支援を充実する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①村学力調査の調査結果で、「漢字を書く」の全国平均の値を、校内正答率が10%上回っているか確認する。</p> <p>②村学力調査の調査結果で、「文章を書く」の全国平均の値を、校内正答率が10%上回っているか確認する。「指定された長さで文章を書いている」の問題項目と「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている」の問題項目と「自分の考えを明確にして書いている」の問題項目の校内正答率が、全国平均の値を10%上回っているか確認する。</p>
<p><方策></p> <p>①計画的に漢字学習の習熟度を確認し、個別支援を充実する。</p> <p>②計画的に文章を書く学習の習熟度を確認し、個別支援を充実する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①村学力調査の調査結果で、「漢字を書く」の全国平均の値を、校内正答率が10%上回っているか確認する。</p> <p>②村学力調査の調査結果で、「文章を書く」の全国平均の値を、校内正答率が10%上回っているか確認する。「指定された長さで文章を書いている」の問題項目と「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている」の問題項目と「自分の考えを明確にして書いている」の問題項目の校内正答率が、全国平均の値を10%上回っているか確認する。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p>2学期の授業評価アンケートにおいて、50%の生徒が「漢字を書く」や「文章を書く」ことに前向きな意見を記述し、意欲を高めていた。</p> <p><課題></p> <p>「漢字を書く」や「文章を書く」ことに意欲をもたせる学習活動を、生徒の学力向上につなげていくことに課題が残った。</p>	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字の字形や意味の違いや共通点に着目させ、複数の漢字を関連付けた学習指導を実践する。 ・「文章を書く」ことについて、段落の構成に着目させ、自分の考えを明確にして表現する授業を実践する。 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「漢字を書く」や「文章を書く」ことの意欲が、らせん的に学力向上に結び付く生徒。 			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第1学年 社会科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

基本的な知識理解が不足している領域がある。

例1 地理科「世界の中の日本の役割」 国際連合の専門機関における名称とその役割についての問いでは、正答率が50%以下であった。（令和4年度 小笠原村学力調査の結果 参照）

例2 令和4年度本校1学年対象教科アンケート

「この教科の学習内容について、現在どの程度理解をしていますか」

⇒「あまりあてはまらない」29%（7名中2名）

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

・令和2年度における社会科の課題とは関連していない。

(令和2年度社会科における課題は次の2点である。①地図から正しい情報を読み取る。②資料から必要な情報を調べ、まとめる。)

⇒ 本年度の客観的資料として上記した学力調査があるが、調査における問いからでは以上2点の課題が解決できたかは判断できない。（該当する問題がなかったため）

ただ、敢えて記すとすれば、4～5月に実施した社会科地理的分野の授業において、地図を用いた範囲における理解度は総じて高かった。（判断理由・ワークシート・定期テスト・観察）

この点からは過去の課題がある程度解決できているとも判断できる。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

前提として、「『わかる』から『できる』を体感する授業の実現」のためには、まず『わからなくてはいけない』（上記した本校アンケート結果参照）よって、『わかる』ための工夫を以下に記す。

- ①毎授業ごとの自己評価を実施。小項目ごとに理解度を記述させ、指導者から必ずフィードバックを行っている。
- ②知識理解を高めるためにワークブックを利用した反復学習を行っている。なお、その際には丁寧に個別指導を実施し、「わかる」まで指導を行っている。

これらの指導・工夫を継続することで、社会科における基本的な知識理解が得られる（網羅できる）と考える。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

①上記2(2)①・②に記した工夫の継続

②後期授業評価アンケートの実施

<検証方法>

①②に共通して

・後期授業評価アンケートの結果分析

(理解度A【あてはまる】 B【だいたいあてはまる】100%を目指す)

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

・後期授業評価アンケートにおける、理解度数値の全体的な上昇。

<課題>

・理解度の底上げ。

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

・引き続き「わかる」ための方策。

・基本知識を活用した、思考力・判断力・表現力の向上。

6. 令和5年度(次学年)末に期待する生徒の姿

・社会科を学ぶ意義・意味の理解度が上昇し、学ぶ意欲が向上している姿。

〈授業改善推進プラン 令和4年度第1学年 数学科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校での既習内容の計算ミス（小数，分数など） 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>（1）令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>①四則に関して成り立つ性質について理解し，正しく計算をする。</p> <p>②数学的な表現を用いて，自分の考えを簡潔・明瞭・的確に表す。</p> <p>（2）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「文字と式」の単元において，自力解決で行う問題演習の前に，クイズ形式での理解を促す計算トレーニング。 ・1次方程式の単元において，ホワイトボードを使用した教え合い活動 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①過去の既習内容の苦手意識を取り除き，間違えたことを隠さず確認していく主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p> <p>②自分の考えをまとめ，クラスメイトに共有することで深く理解する</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①小テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施前と後に行い，定着度を確認する。 <p>②ホワイトボードを用いた発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。 </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①過去の既習内容の苦手意識を取り除き，間違えたことを隠さず確認していく主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p> <p>②自分の考えをまとめ，クラスメイトに共有することで深く理解する</p>	<p><検証方法></p> <p>①小テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施前と後に行い，定着度を確認する。 <p>②ホワイトボードを用いた発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。
<p><方策></p> <p>①過去の既習内容の苦手意識を取り除き，間違えたことを隠さず確認していく主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p> <p>②自分の考えをまとめ，クラスメイトに共有することで深く理解する</p>	<p><検証方法></p> <p>①小テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施前と後に行い，定着度を確認する。 <p>②ホワイトボードを用いた発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の際に注意するポイントの説明も行うように設定する。 		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テストを繰り返すたびに，取り組む姿勢はよくなった。また小テストに向けて質問しにくる生徒も多くなった。そのため小テストの点数の割合も高くなってきた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・直近の小テストや定期考査に向けて学習に取り組む姿勢や意欲は高まった反面，既習内容の振り返りが不十分で，復習問題などで間違えてしまう。 	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に振り返りの授業や問題演習を行う。 ・本時の内容につながる既習内容の振り返りを適宜行う。 ・基礎的な内容の定着だけでなく，数学的な論理思考の向上，確認のため，生徒による解説・説明・発表を授業で行っていく。 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学習に取り組み，基礎基本の定着を図ろうとする生徒。 			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第1学年 理科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

令和4年度村学力調査結果より、次のことが挙げられる。

- ・「月と太陽」の(2)の校内平均正答率が71.4%であり、目標値80.0%および全国平均80.7%よりも低い。また、「月と太陽」の(3)の校内平均正答率が0.0%であり、目標値40.0%および全国平均19.6%よりも低い。
- ・「大地のつくりと変化」の(2)の校内平均正答率が14.3%であり、目標値40.0%および全国平均23.5%よりも低い。また、「大地のつくりと変化」の(3)の校内平均正答率が57.1%であり、目標値70.0%および全国平均77.4%よりも低い。
- ・会話文やまとめられた図、表、グラフ等の資料を読み取る問いに関しては、この単元のみならず全般的に課題が見られる。
- ・基礎的・基本的な知識及び技能を日常生活と関連付けながら身に付ける必要がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

【課題】①基礎的な知識の定着。②学習したことと自然の事象とを結び付けて考え、理解して説明する。

【課題に対する具体的な授業改善策】①基礎的な用語、器具の使い方などは、繰り返し実験器具カードやワークシートに記入させるなど丁寧に指導して理解を図る。

②知識の提示は、自然事象と結び付けながら丁寧に整理して提示するようにする。文章で表現させるときはキーワードを示すなどの支援をし、自分で説明することに慣れさせる。

【評価】①ノート・プリントへの記入や実際に何度も使ってみることを通して器具の名称、道具の使い方などが定着した。②問題を日常生活と関連させながら捉え、比較しながら考えようとする態度が育った。正しい言葉で表現したり、文章で表したりすることへの意識はまだ低い。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・内容のまとめりに、会話文から題意を読み取り、図・表・グラフなども活用するタイプの問題演習を行い、基礎的・基本的な知識及び技能を活用する場面を設ける。
- ・文章で表現させるときは、キーワードを示すなどの支援を個に応じて行い、自分で表現することをまとめられる場面を設ける。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①内容のまとめりに、会話文から題意を読み取り、図・表・グラフなども活用するタイプの問題演習を行い、基礎的・基本的な知識及び技能を活用する場面を設ける。
- ②内容のまとめりに、本時の授業のまとめや、問いに対する説明を記入させる時間を設ける。

<検証方法>

- ①内容のまとめりに、会話文から題意を読み取り、図・表・グラフなども活用するタイプの問題演習を行う。教科書、市販の教材を用い、正答率の芳しくない問いに対するフィードバックを行う。年15回程度。
- ②授業のまとめの時間に、タブレットPCでまとめや授業中に浮かんだ疑問等を入力する。既習の用語で学んだことを説明できるように、適宜キーワードを示すなど支援し、自分で説明することに慣れさせる。通年で実施し、章や単元ごとにフィードバックし、学習を調整できる機会をつくる。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

- ・分かったことを端的に、科学的用語を用いて表現できる生徒が増えた。

<課題>

- ・問題演習において、会話文、図、表、グラフの情報のうち、鍵となる部分がかんがえず、題意を読み取ることが困難である。また、基本的な用語の意味もあやしい生徒も数名いる。計算や作図に苦手意識が見られる。

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・基本的な用語の確認を継続的に行う。
- ・計算や作図方法の確認を個別に支援する。
- ・問題演習時に、読み取るポイントを伝え、数値や実験の結果など、大切な箇所に下線を引かせて、情報を抽出、整理する。

6. 令和5年度(次学年)末に期待する生徒の姿

- ・「基礎的な知識」を確実に身に付け、文章量のある問題でポイントを押さえながら読み取り、考えを働かせることができる生徒の姿。

〈授業改善推進プラン 令和4年度第1学年 音楽科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

令和4年度、前期の授業評価アンケートを集計し、教科を通して興味・関心を高められているという項目において、Aは80%、Bは20%であった。しかし、この教科についてどの程度理解しているかという項目において、Aは40%、B・C・Dともに20%であった。授業では発言も活発で、ワークシートにも思いを表現できる生徒が多い。しかし、音楽は難しいものとインプットしてしまっている生徒もおり、「わかるはず」のことを「わかろうとしない」姿勢になってしまうところが課題である。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ①アンサンブルをする能力→指揮者やパートリーダーを選出して、全員がまとまって演奏できるようにする。
 - ②思いを込めて歌う→楽曲についての話し合い活動を行い、イメージをもって歌う指導を行う。楽曲のイメージを喚起するピックアップカードを用いる。
- ※ただし、小学5年生の時の授業改善プランのため、校種に違いがあり、現在に適した改善プランとはならないところもあるため、(2)では令和2年度の改善プランを参考に、発達段階に合わせた授業改善推進プランを提案する。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ①アンサンブルをする能力については、中学校学習指導要領をもとに、「全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する活動」に重点を置き、タブレット端末での録画や意見交換、録音機材を使用し視覚と聴覚を使って「わかる」から「できる」を体感させる。
- ②「思いをこめて歌う」については、作曲者の立場になり、この旋律をどのような思いをもって作ったのかを理解するために、歌の旋律をつくる創作活動を行う。東京都中学校音楽コンクールの課題詩を使用し、作詩者の思いを考えた上で創作をする。創作は創作表現だけにとどまらず、すべての表現活動に通じるため、歌唱表現の「思いをこめて歌う」につながる。また、自分の作った旋律に思いや意図が現れるため「わかる」から「できる」につながりやすい。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①年間2回の授業アンケートの実施
- ②年間3回の定期考査の実施

<検証方法>

- ①年間2回の授業アンケートの内容分析
- ②年間3回の定期考査を実施した内容の分析

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

「分かろうとしない」生徒が減少した。授業の取り組みを見ても、あきらめずにやってみようとする姿を見ることができた。また、どの程度理解しているかについての質問は前期より改善された。

<課題>

- ・音符の長さ・名前など、音楽の基礎的知識が定着しない部分がある。
- ・少し高度なことに入っていることもあり、興味関心が薄れてしまう生徒もいる。

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・1年生で行った創作の授業を発展させるべく、小笠原学習と絡め、自作の詩にメロディーをつける創作活動を行う。
- ・音楽室内の掲示物を工夫する。例えば、音楽を形づくっている要素のヒントになる用語を貼り出したり、それによってどのような音楽を感じ取れるのかという「感受」にあたる部分のヒントの言葉を掲示したりし、音楽を音や言葉で表現する力をつけていく。

6. 令和5年度(次学年)末に期待する生徒の姿

- ・様々な音楽活動から音楽を表現する奥深さを知り、音楽を形づくっている要素と絡めながら、音や言葉で表現する生徒。

〈授業改善推進プラン 令和4年度第1学年 美術科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>・令和4年度前期授業評価アンケートでは、「美術科の学習を通して、この教科への興味・関心を高めることができるか」という項目に関して、83%が「あてはまる」、17%が「だいたいあてはまる」、それ以下該当なしである。また、「この教科の学習内容について、現在どの程度、理解していますか」という項目に関しては、33%が「100～75%」、50%が「75～50%」、17%が「50～25%」、それ以下該当なしである。以上の結果のみならず、授業への興味・関心は高い（ここ3年間の結果より）が、学習内容の確実な定着については、少し課題がみられると思われる。</p>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>・【課題】①自分と友だちの作品の違いを認め、他者を尊重して鑑賞する。②自分の作品を客観化して鑑賞する。 【改善策】①映像メディア表現による協同的な学習を通して、互いの違いを尊重しながら表現活動に取り組みさせる。②同じ課題を個人または複数で進めることで、同じ視点で互いの作品について鑑賞させる。 【評価】①映像メディア表現に取り組むことで、協同してよりよい表現活動を行うことができた。②相互鑑賞を行うことで、多角的な視点で鑑賞を行うことができた。</p> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>・思考・判断・表現に関する出題において、主題の生成や客観的に作品を批評する見方や考え方（美術科の場合は、感じ方）を定着させていく。</p> <p>・美術科の学習におけるメタ認知能力を高めるために、パフォーマンス課題に取り組みさせることで、主体的な学びを深められるようにしていく。</p> <p>・アナログの造形日記による振り返りとデジタルのタブレット端末を活用したポートフォリオの作成等をハイブリッド化し、造形的な視点による創造性の涵養を図る。教師にとっては、生徒の学習の軌跡をデータ化し、評価評定に活かし、指導と評価の一体化及び授業改善に役立てる。</p>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施</p> <p>②年間3回の定期考査の実施</p>	<p><検証方法></p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析</p> <p>②年間3回の定期考査の実施内容の分析</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p>・小中併置校であるため、中1ギャップもなく、スムーズに図工から美術への学習へ移行し、美術科での学習方法や身に付ける資質・能力を生徒が的確に理解している。よって、図画工作科から美術科への学習をスムーズに進めることができた。そして、授業評価及び定期考査の結果が、回を追うごとによい方向へと向かうことができた。</p> <p><課題></p> <p>・引き続き、生徒が主体的に取り組める課題設定を行うとよいだろう。</p>	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>・生徒のことを一番近くで指導し、理解している教科担任が、生徒がより個性を生かした創造活動に取り組めるように、生徒の実態に応じた弾力的な学習を引き続き展開していくとよいのではないだろうか。よって、発達の特性に応じた題材を常に検討しながら、他教科との教員とも連携して、それぞれの学年において育成する資質・能力を効果的に身に付けられるように指導計画を常に修正していくことが大切である。</p>
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>・生徒が創造することの価値を捉え、自己や他者の作品などに表れている創造性をさらに尊重する態度の形成。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和4年度第1学年 保健体育科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートの結果より、教科の関心を高められていると感じている生徒が71%いる一方で、内容をあまり理解していないと感じている生徒が71%いる。内容をあまり理解していないと感じている生徒の背景には、自分自身の運動技能に十分に自信をもてていないことや、知識として定着していないことが課題としてある。 ・新体力テストの結果より、特に全身持久力とスピードに課題が見られた。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】①基本的な運動技能の習得と体力の向上、②課題の解決に向けて、思考・判断し、他者に伝える力の育成</p> <p>【改善策】①各種目の特性に応じた技能と必要な体力を押さえ、スモールステップで課題を提示し、運動に取り組みせる。②学習カードやICT機器を活用し、視覚的にわかりやすいようにするとともに、仲間と意見を交換する機会を設け、理解を深めさせる。</p> <p>【評価】①段階的に指導し、基本的な運動技能を定着させることができた。②仲間と協力し、課題を解決することができた。</p> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力やコーディネーション能力の向上を目的とした補強運動を設定し、年間を通して授業の導入部分で実践している。 ・学習カードやICT機器を活用し、運動のポイントが視覚的にわかりやすいように工夫している。 ・体力の違いや技能に応じて、ルールの緩和を行い、全員がゲームに参加できるようにしている。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top; border-right: 1px dashed black;"> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施 ②年間3回の定期考査の実施 ③新体力テストの実施 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②年間3回の定期考査の実施内容の分析 ③新体力テストの結果の分析 </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施 ②年間3回の定期考査の実施 ③新体力テストの実施 	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②年間3回の定期考査の実施内容の分析 ③新体力テストの結果の分析
<p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施 ②年間3回の定期考査の実施 ③新体力テストの実施 	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②年間3回の定期考査の実施内容の分析 ③新体力テストの結果の分析 		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期授業評価アンケートの結果より、授業内容を理解している、だいたい理解しているという生徒が86%に上がった。また、興味・関心を高めているという生徒は100%であり、主体的な学びを促すことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度新体力テストの結果より、走る力や瞬発力に課題がある。主体的な学びのもと、基礎的な体力の向上を継続して目指す。 	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複式学級における男女共習授業として、体力の違いや技能に応じて、ルールの緩和を検討し、全員がゲームに参加できるように配慮を継続して行う必要がある。特に1年間の学習を通して、運動・スポーツの多様性を伝え、ルールの提案などを生徒主体で行うことができるように指導していく。 ・生徒の保健体育科に関する見方・考え方を深めるために必要なICT機器の活用方法を検討し、活用場面を精査する。 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身が心と体を一体として捉え、積極的に豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を伸ばしている。 			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第1学年 技術科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習における課題設定と、振り返りを習慣化させることが求められる。 ・実践的・体験的な学習活動では、全ての生徒が意欲的に取り組んでいるが、技能の観点で差が出てくる生徒がいる。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用して前時と本時の学習内容を短時間で確認する。 ・実践的・体験的な学習の機会をこれまで以上に設けていく。 <p>上記の活動を定着させることで、学習内容を系統立てて取り組むことができた。また、主体的な実践から、よりよい生活を構築する資質を育成できた。</p> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プリント教材を用意し、毎時間の授業の振り返りを家庭でできるようにする。 ・作業に遅れがある生徒には、道具の使い方を実演・助言し、木工機械を利用して切断を行うなど加工の補助を行い、進度をそろえる。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①学習の理解度が本人にフィードバックされるようにワークシートに記入させ、適切な支援を行う。</p> <p>②プリントやワークシートで課題に気づき、解決できる能力を身に付けさせる。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top; border-left: 1px dashed black;"> <p><検証方法></p> <p>①課題， 考査， 授業評価アンケート</p> <p>②課題， 考査， 授業評価アンケート</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①学習の理解度が本人にフィードバックされるようにワークシートに記入させ、適切な支援を行う。</p> <p>②プリントやワークシートで課題に気づき、解決できる能力を身に付けさせる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①課題， 考査， 授業評価アンケート</p> <p>②課題， 考査， 授業評価アンケート</p>
<p><方策></p> <p>①学習の理解度が本人にフィードバックされるようにワークシートに記入させ、適切な支援を行う。</p> <p>②プリントやワークシートで課題に気づき、解決できる能力を身に付けさせる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①課題， 考査， 授業評価アンケート</p> <p>②課題， 考査， 授業評価アンケート</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートの結果より、生徒からの意見に、生活の問題を解決するための能力を高めたいとする記述が多く、資質能力の高まりがうかがえる。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識の定着に困難を感じている生徒が多い。 	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製作中に設計変更を行うことがあったため、構想や製作図の作成に十分時間をかけ、生活や社会へ向けた思いが実現できる製作品になるよう支援する。 ・技術の見方・考え方を深めるために必要なICT機器の活用方法を検討し、活用場面を精査する。 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よりよい生活や社会の実現に向けて、技術の見方考え方を働かせながら身近な生活を工夫し創造しようとする態度の形成。 			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第1学年 家庭科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で学習した知識を、自身の生活と結び付けて考えることが求められる。 ・グラフの読み取りや自身の考えや意見を、根拠をもって具体的に表現したり、自身の生活をよりよく改善しようとしたりする生徒が少ない。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を他の題材と関連させながら確認する。また ICT を活用して、写真や動画を提示し、理解を深めさせる。 ・身近な生活課題を主体的に取り組む活動を充実させる。 <p>〈評価〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食生活の知識を関連させながら確認し、知識を定着させることができた。 ・防災等の身近な課題を設定することで、主体的に学習する意欲を高めることができた。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の授業の復習として、授業の初めにスライド資料やクイズ形式でまとめ、モニターに提示し、知識の定着を図る。 ・題材の導入やまとめなどには動画を活用し、具体的なイメージをもたせることで自身の生活と結び付けて、理解を深めさせる。 ・自身の生活を振り返り、よりよく改善する方法について考え、お互いに共有する時間を設ける。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><方策></p> <p>①自身の生活と結び付けて考えられるように、身近な題材を扱いながらワークシートに記入させ、生徒それぞれに応じた適切な支援を行う。</p> <p>②既習事項をもとに、グラフの読み取りや自分の考えを、根拠をもって説明できるような能力を身に付けさせる。</p> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p><検証方法></p> <p>①課題，定期考査，授業評価アンケート</p> <p>②課題，定期考査，授業評価アンケート</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①自身の生活と結び付けて考えられるように、身近な題材を扱いながらワークシートに記入させ、生徒それぞれに応じた適切な支援を行う。</p> <p>②既習事項をもとに、グラフの読み取りや自分の考えを、根拠をもって説明できるような能力を身に付けさせる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①課題，定期考査，授業評価アンケート</p> <p>②課題，定期考査，授業評価アンケート</p>
<p><方策></p> <p>①自身の生活と結び付けて考えられるように、身近な題材を扱いながらワークシートに記入させ、生徒それぞれに応じた適切な支援を行う。</p> <p>②既習事項をもとに、グラフの読み取りや自分の考えを、根拠をもって説明できるような能力を身に付けさせる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①課題，定期考査，授業評価アンケート</p> <p>②課題，定期考査，授業評価アンケート</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートの結果より、既習事項を生活に生かしたいと回答する生徒が多く、自身の生活と結び付けようとしている姿が見られた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識があまり定着していない生徒が多い。定期考査における知識を活用し、思考・判断・表現する問題の正答率が、他の問題と比べて低い。 	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎知識の定着。ワークの活用，視覚教材や ICT 機器を使用し，知識同士を結び付けながら定着させていく。 ・自身の生活と関連させ，実践的で体験的な学習の時間を確保し，自身で課題を解決できるような授業を展開する。 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識を活用し，自身の生活に興味関心をもち，さらに生活の質をよくしようと意欲的な生徒。 			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第1学年 英語科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>・令和4年度村学力調査では、「音声聞き、活字体の小文字を正しく書いている」の項目において正答率75%と、他の項目より低い。また、令和4年度前期授業評価アンケートでは、「もっと英語を聞き取れるようになりたい。」「書くことがあまりできないのもっと書けるようにしたい。」など、「聞くこと」及び「書くこと」に関する記述が複数見られた。このことから、「音声」（『学習指導要領』2-2(1)ア）および「語、連語及び慣用表現」（同2-2(1)ウ）に課題がみられると考えられる。</p>			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>・【改善策】学習のねらいを明確にした上で、新出単語・新出文法を、ワーク等を活用し、繰り返し練習させる。 【評価】単語や文法事項を繰り返し練習させることができた。</p> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>・『学習指導要領』2-2(1)アの力を伸ばすために、ALTや教科書に関連した音声素材を活用しながら様々な人の話す英語に触れさせ、語と語の連結や強勢、イントネーションなどの音声面での特徴に触れさせる。</p> <p>・同2-2(1)ウの力を伸ばすために必要な語句について、授業内で生徒用タブレット内のデジタル教科書を活用した個別学習や、互いに問題を出し合うペア活動、家庭学習での反復練習など、複数の方法で学ぶ機会を設ける。</p>			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①音声と綴りの関係(フォニックス)を取り上げる帯活動及びALTを活用した音読指導</p> <p>②学習した語句を確実に身に付けられるよう、教科書1セクションごとに小テストを行う。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①各単元末のパフォーマンステスト、年4回の定期考査</p> <p>②1セクションごとの小テスト</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①音声と綴りの関係(フォニックス)を取り上げる帯活動及びALTを活用した音読指導</p> <p>②学習した語句を確実に身に付けられるよう、教科書1セクションごとに小テストを行う。</p>	<p><検証方法></p> <p>①各単元末のパフォーマンステスト、年4回の定期考査</p> <p>②1セクションごとの小テスト</p>
<p><方策></p> <p>①音声と綴りの関係(フォニックス)を取り上げる帯活動及びALTを活用した音読指導</p> <p>②学習した語句を確実に身に付けられるよう、教科書1セクションごとに小テストを行う。</p>	<p><検証方法></p> <p>①各単元末のパフォーマンステスト、年4回の定期考査</p> <p>②1セクションごとの小テスト</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p>①個々の語句を正しく発音できるようになった。</p> <p>②小テストを通して、日々の学習への意識付けができた。</p> <p><課題></p> <p>①文における音声上の特徴が十分に身に付かず、聞き取りの際もつまづきが見られた。</p> <p>②小テストで正答できた語句でも、「読むこと」や「書くこと」の活動でうまく活用できない場面も見られた。</p>	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>・語と語の連結や強勢、イントネーションなどの音声面の特徴についてもALTを活用しながら繰り返し取り上げ、意識を向けさせる指導を行う。</p> <p>・できる限り目的や場面、状況が明らかな文の中で単語を覚える。</p>		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する生徒の姿</p> <p>・語と語の連結や強勢、イントネーションなどの音声面の特徴を理解し、自然な速度の音声を聞き取ることができる生徒。</p> <p>・日常的な話題について読んだり書いたりできる生徒。</p>			